

## みかんのお礼

新幹線に乗っていた夫婦が、すぐ近くの席に松下幸之助が座っていることに気がつきます。夫は彼の大ファンで、どうしても挨拶がしたいと思い、声をかけようとしみます。しかし、理由もなく話しかけても、相手にしてくれるかどうかわからない。そこで妻が、みかんを差し入れて、きっかけを作ればいいのかでは、と提案。夫はさっそくみかんを購入し、彼に差し出すことにしました。

彼は、この申し出を快く受け入れ、嬉しそうに「これはありがとうございます」と言って、その場で皮をむいて食べはじめました。夫はみかんを渡せし、あの松下幸之助と話すこともでき、大満足で自分の席に戻りアイデアをくれた妻にも感謝しました。

そして、もうすぐ京都に着くという時です。彼は夫婦の座席にやってきて「先ほどはありがとうございました。とてもおいしかったです」と頭を下げました。天下の松下幸之助が、下車する前にわざわざ挨拶をしにきてくれたと、夫婦は感動します。

しかし、話はまだ終わりません。京都駅で下りた彼は、その夫婦の座席が見える窓のところまで来て、深々と頭を下げ、夫婦の姿が見えなくなるまで見送ってくれたのです。

夫は彼の行為に涙します。そして、家に帰るとすぐに電気屋さんへ連絡。自宅の電化製品すべてをナショナル製品に変えたそうです。

この話は、2010.4月に江口克彦氏の講演で聞いた内容の一部です。(たくさんの楽しい話をありがとう)

江口克彦氏とは松下幸之助の晩年23年間、側近として共に過ごした方です。(松下幸之助の秘書、PHP総合研究所社長、等)

経営の神様と呼ばれる 松下幸之助の「ありがとう」にまつわる逸話  
でした。

